

問題 I

以下の問題文の空欄 (1) (2) から (11) (12) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (13) (14) から (カ) (23) (24) に解答し、最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

ビザンツ帝国（東ローマ帝国）の始まりをいつ頃とみなすか議論はあるが、^(ア)330年に首都がビザンティウムに移転し、コンスタンティノープルと改称されたのをもって、ビザンツ帝国の起源とするのが一般的である。4世紀後半ローマ帝国は東西に分裂し、以後別々の道を歩むことになるが、ビザンツ帝国は、その後1000年間存続する。その間、ビザンツ帝国はスラヴ人やペルシア人を始めとするさまざまな異民族の攻撃から国境を守ってきたが、以下、それらを見ていく。

5世紀の西ローマ帝国滅亡後、コンスタンティノープルはローマ帝国唯一の首都として繁栄を極めていく。初期のビザンツ皇帝^(イ)ユスティニアヌス1世は、一時的とはいえ、^(ロ)ローマ帝国の地中海沿岸における旧領の大半を取り戻すことに成功する。同帝の治世はビザンツ帝国に栄光の時代をもたらし、コンスタンティノープルにビザンツ様式の壮麗な Hagia Sophia 聖堂を建立するなどその権勢を誇示した。ビザンツ皇帝は、政治と宗教の両面において絶大な権力を持っていた。自らを全世界の支配者であると自認し、また5世紀半ば以降、^(エ)コンスタンティノープル総主教から帝冠を授けられることで、皇帝は地上における神の代理人として自らの権力を正当化した。

ビザンツ帝国は、蓄積された高度な外交技術や優れた官僚機構、伝統ある軍隊という、十分な政治上の資産をもっていたといえる。しかし、帝国の領土が広すぎたという問題があった。その結果、絶え間ない異民族の侵攻に耐えきれなかった。このように苦闘を続けるビザンツ帝国は、628年、ササン朝ペルシアとの戦いに勝利する。しかし、^(カ)アラブ勢力の侵攻により、ビザンツ帝国は、636年にシリア属州の、642年にエジプト属州の支配権を相次いで喪失した。その後も領土は縮小の一途をたどり、674年から718年にかけて、ビザンツ帝国は、(1) (2) 朝のアラブ軍にコンスタンティノープルの二度の包囲を許してしまった。二度目の包囲の際にアラブ軍を撃退し、帝国の危機を救ったのが、小アジアの軍管区長官出身の (3) (4) であった。彼は、アラブ軍を撃退するとコンスタンティノープルにやってきて、みずから皇帝の座についた。9世紀後半に始まる (5) (6) 朝は第一次ブルガリア帝国を併合し、それ以後、ビザンツ帝国の前には繁栄と拡大の時代が開け、それは11世紀初頭まで続くことになる。コンスタンティノープルは、つねに経済の中心地として繁栄し続け、12世紀にいたるまで、アジアから西方に運ばれる高価な商品の中継地としての役割を果たし続けた。帝国で用いられた (7) (8) 金貨は、ヨーロッパから西アジアにいたる広い地域で流通した。

しかし、1071年、小アジアの (9) (10) の戦いでビザンツ軍がセルジューク朝のトルコ軍に惨敗すると、小アジアの領土は事実上失われ、ビザンツ帝国は大きな痛手を被ることとなった。そのように増大する新たな脅威に対抗するため、1095年、時の皇帝 (11) (12) は、ローマ教皇を通して西方に援軍を求めた。また、ビザンツ帝国は、のちに自らを脅かす存在となるヴェネツィア共和国への譲歩を強いられた。1202年から1204年にかけて、インノケンティウス3世のもとにおこされ、異教徒と戦うために東にむかったはずの第4回十字軍は、聖地ではなくコンスタンティノープルを占領した。これは、商業圏の拡大をもくろむヴェネツィアの意向によるものであった。1204年、占領されたコンスタンティノープルにラテン帝国が建てられた。そのため、ビザンツ帝国の宮廷は、各地を転々とした。1261年、その宮廷は、ラテン帝国からコンスタンティノープルを奪回する。また、11世紀以来、ビザンツ帝国では、^(キ)貴族層を対象に、軍事奉仕を条件として公有地の管理権及び徴税権を当人一代にかぎり付与する制度が発展してきたが、これはのちに世襲化され、社会の独自の封建化を促すことになった。

だが、コンスタンティノープルを奪回しても、もはやかつての勢いは戻らず、ビザンツ帝国は衰退の道をたどり始める。そして、ついに1453年、メフメト2世率いるオスマン帝国軍の攻撃によって、コンスタンティノープルは陥落し、

ビザンツ帝国は滅亡した。コンスタンティノーブルの陥落は大事件であり、当時キリスト教世界に走った衝撃は、想像を絶するほど大きなものであったといわれる。

[設問]

(ア) この事業を行った皇帝の伝記を執筆し、さらに、『年代記』を書いた人物は誰か。 (13) (14)

(イ) カルタゴと並んでビザンツ帝国の総督府が置かれていた地で、ユスティニアヌス1世のモザイク画があるサン＝ヴィターレ聖堂が所在する地はどこか。 (15) (16)

(ウ) 551年、ビザンツ帝国はある国から領土を奪って、帝国領の大半を回復する。この領土を奪われた国が、6世紀後半から8世紀初頭まで首都としていたのはどこか。 (17) (18)

(エ) 6世紀初頭、コンスタンティノーブルをはじめ、ビザンツ帝国内のいくつかの地に総主教座が置かれていたが、このうち、かつてセレウコス朝シリアの首都であったのはどこか。 (19) (20)

(オ) この間アラブ勢力を率いたカリフは誰か。 (21) (22)

(カ) この制度は後に、オスマン帝国のティマール制に影響を与えたといわれているが、ティマール制において徴税権を認められた者は誰か。 (23) (24)

[語群]

- | | | | |
|-------------|----------------|---------------|---------------|
| 01. アター | 02. アッバース | 03. アトス | 04. アドリアノーブル |
| 05. アリー | 06. アルカディウス | 07. アレクシオス1世 | 08. アンティオキア |
| 09. アンティゴノス | 10. アンブロシウス | 11. ウァレンス | 12. ウスマーン |
| 13. ウマイヤ | 14. ウマル | 15. エウセビオス | 16. エクバタナ |
| 17. エフェソス | 18. エリウゲナ | 19. エレクトラム | 20. カーディー |
| 21. カディス | 22. カーヌーン | 23. カラカラ帝 | 24. カルケドン |
| 25. カルタヘナ | 26. キジルバシュ | 27. クライシュ | 28. グラナダ |
| 29. クレーロス | 30. 後ウマイヤ | 31. コムネノス | 32. コルドバ |
| 33. サーマーン | 34. サラゴサ | 35. シパーヒー | 36. ジャーギール |
| 37. セビリャ | 38. ダマスクス | 39. テオドシウス1世 | 40. テッサロニケ |
| 41. ドラクマ | 42. トラヤヌス帝 | 43. トレド | 44. ニカイア |
| 45. ニハーヴァンド | 46. ネルウァ帝 | 47. ノミスマ | 48. バクトラ |
| 49. ハーシム | 50. バシレイオス1世 | 51. バシレイオス2世 | 52. バルセロナ |
| 53. バレンシア | 54. ヒッポレギウス | 55. ヘカトンピュロス | 56. ヘラクレイオス1世 |
| 57. ペルガモン | 58. ペルナルドゥス | 59. ボエティウス | 60. マケドニア |
| 61. マラーズギルド | 62. マラーター | 63. メテオラ | 64. モンテ＝カシノ |
| 65. ラヴェンナ | 66. ルーム＝セルジューク | 67. レオン(レオ)3世 | |

問題 II

以下の問題文の空欄 (25) (26) から (43) (44) と、中華民国に関する設問 1 (45) (46) から設問 3 (49) (50) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

1949年9月、中国共産党（中共）は北平（北京）で (25) (26) を開催し、翌10月には中華人民共和国（中国）が成立した。中国が今日のように経済的に発展し、国際社会における存在感を強めるまでには、国家建設や対外政策にさまざまな変遷を経てきた。

1950年6月、朝鮮半島の統一をめざす朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）の南進により朝鮮戦争が始まった。同年8月に同半島南端近くまで北朝鮮軍が迫ったが、9月の国連軍による (27) (28) 上陸により11月には国連軍は中朝国境近くまで戦線を押し戻した。中国は10月に北朝鮮を支援するため参戦し、戦線は北緯38度線近くで膠着した。1953年7月には休戦協定が締結された。

中国の朝鮮戦争介入は、その国家建設にさまざまな影響を与えたが、中共は民主諸党派との連合体制の建前を残しつつ、一党独裁体制を強化していった。たとえば1957年からの (29) (30) によって中共への批判が封じ込められ、翌1958年からの第2次五カ年計画では、農村の人民公社化が進められた。しかしこうした強硬な政策などにより、毛沢東の求心力は低下した。彼にかわって国家主席に就任した劉少奇は、急進的な社会主義化を緩和する政策を採った。

毛沢東や軍事指導者であった (31) (32) らは、劉少奇や鄧小平らを資本主義の復活を図る者と非難した。1966年に始まるプロレタリア文化大革命（文革）は、中共内の路線対立によって引き起こされたとも言われている。そこでは、権力闘争に動員された (33) (34) が統治機構を破壊したり、都市の知識青年が下放させられたりする局面もあり、中国にさまざまな混乱をもたらされた。1976年に毛沢東が死去すると、実質的にこの運動を指導していた江青ら「四人組」が逮捕されることで、文革は終結した。

文革期の中国はソ連を敵視する一方で、ソ連と対立する米国との関係改善を図り、1972年にはニクソン大統領が訪中した。この米中接近に衝撃を受けた日本も、同年に田中角栄首相が訪中して国交を正常化させ、1978年には日中平和友好条約が締結された。他方で中国は、カンボジアをめぐる (35) (36) と対立し、1979年には同国に対する懲罰を主張して攻撃を行った。

文革後、国家の近代化建設が鄧小平によって本格的に推進されることとなり、彼は改革・開放政策を深化させた。1980年に深圳に設けられた (37) (38) は対外開放の先駆けとなった。だが改革・開放政策が成果を挙げる一方で、インフレや所得格差、党官僚の不正腐敗、人権の抑圧などの問題により、一部の学生や知識人たちに不満が高まった。1989年4月、中共前総書記であった胡耀邦の死去を一つのきっかけにして、学生らによる民主化要求運動が起きたが、人民解放軍などの武力で鎮圧された。この事件は「 (39) (40) 」ともいわれるが、この過程で趙紫陽中共総書記が運動に同情的であったとして解任され、江沢民がその後任となった。

この事件は国際的に厳しい批判を招いたが、1992年、鄧小平は広東省において「 (41) (42) 」を発表し、市場経済原理を導入してさらなる経済発展を促した。2002年、江沢民から胡錦濤への政権移譲が行われた。経済成長路線も引き継がれた結果、2010年には中国はついに国内総生産で日本を抜き、世界第二の経済大国となった。2012年に中共総書記となった習近平は、貧富の格差や環境の悪化の解決、安定成長の実現などに加え、汚職腐敗の追放をも一つの課題としている。

対外政策において中国は、1980年代以降「独立自主の平和外交」を長く続けている。1997年にはイギリスから香港が、1999年にはポルトガルからマカオが返還されたが、この両地域では「 (43) (44) 」によって50年間は資本主義体制が維持されることとなった。中国は国際社会においてさまざまな役割を演じており、近年では南シナ海や東シナ海で領有権を主張し資源開発を行うなど、国益の追求に積極的である。

設問 1

毛沢東と蔣介石との間で1945年に成立した、内戦の回避や協議の実施に関する取り決めは何か。 (45) (46)

設問 2

中華民国は1945年から台湾を統治下に置いたが、外省人と内省人との対立を背景に、1947年に台北で生じた官憲に対する大規模な抗議運動を何というか。 (47) (48)

設問 3

国民党の馬英九政権が掲げた中台関係に関する方針を何というか。 (49) (50)

[語群]

- | | | | | |
|-------------|------------|--------------|--------------|------------|
| 01. 一国二制度 | 02. 仁川 | 03. インドネシア | 04. 元山 | 05. 王洪文 |
| 06. 戒厳令 | 07. 解放区 | 08. 華国鋒 | 09. 九・三〇事件 | 10. 経済特区 |
| 11. 五・一五事件 | 12. 紅衛兵 | 13. 黄埔条約 | 14. 五月危機 | 15. 五・三〇運動 |
| 16. 刷新 | 17. 三光政策 | 18. 三農問題 | 19. 三不政策 | 20. 周恩来 |
| 21. 自由貿易試験区 | 22. 人民義勇軍 | 23. 人民政治協商会議 | 24. 人民武装警察部隊 | 25. 人民民主主義 |
| 26. 政治協商会議 | 27. 西部大開発 | 28. 全国人民代表大会 | 29. 走資派 | 30. 双十協定 |
| 31. 租界 | 32. タイ | 33. 第1次国共合作 | 34. 第2次国共合作 | 35. 大躍進運動 |
| 36. 太陽政策 | 37. 濟州島 | 38. 中共全国代表大会 | 39. 張春橋 | 40. 調整政策 |
| 41. 清津 | 42. 大邱 | 43. 南巡講話 | 44. 二・二八事件 | 45. 二・二六事件 |
| 46. 反右派闘争 | 47. フィリピン | 48. 釜山 | 49. ベトナム | 50. 望厦条約 |
| 51. 三つの代表 | 52. 門戸開放宣言 | 53. 洋躍進 | 54. 四つの現代化 | 55. ラオス |
| 56. 李大釗 | 57. 林彪 | 58. 六四事件 | | |

問題Ⅲ

近年、グローバリゼーション（グローバル化）と呼ばれている世界の一体化は、最近になって始まった現象ではなく、長い歴史を有している。この歴史的過程に関する、以下の設問1から設問8に答えなさい。

設問1

近世以前の時代からすでに、ユーラシア大陸の内部や周辺において地域間の接触・交流が見られた。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の

(51)	(52)
------	------

 にマークしなさい。

- [01] 中国からインド洋にいたる海上交易路は、ジャンク船によって陶磁器が盛んに運ばれていたため、「陶磁の道」とも呼ばれている。
- [02] 三角型帆を持つ木造船であったダウ船は、インド洋やアラビア海での交易で使われた。
- [03] アイユーブ朝やマムルーク朝時代の東西交易においては、カーリミー商人が活躍した。
- [04] 中国で海上貿易を管理する役所であった市舶司は、唐の中期、泉州に初めて開設された。

設問2

15世紀から17世紀にかけての大航海時代は、異なる大陸間の結びつきが深まり、世界の一体化の幕開けとなった。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の

(53)	(54)
------	------

 にマークしなさい。

- [01] 羅針盤の改良や快速帆船の普及は、陸地から遠く離れた海上を進む遠洋航海を可能にした。
- [02] バルトロメウ＝ディアスは、かつて「航海王子」と呼ばれたエンリケの治世下で、アフリカ南端の喜望峰に到達した。
- [03] 1493年にローマ教皇は、ポルトガルとスペインの植民地分界線を定めた。
- [04] アカプルコとマニラの間の貿易では、大型の帆船ガレオン船が使われた。

設問3

産業革命に端を発する19世紀の交通革命は、世界の一体化の推進に貢献した。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の

(55)	(56)
------	------

 にマークしなさい。

- [01] 1712年に、ニューコメンが蒸気機関を実用化した。
- [02] 1830年にストックトン～ダーリントン間で、鉄道の本格的な営業運転が開始された。
- [03] イギリス本国におけるほぼ全国的な鉄道網が完成したのは、1850年前後であった。
- [04] フルトンが1807年に建造した蒸気船クラーモント号は、ハドソン川を航行した。

設問 4

19世紀における通信技術の発展も世界の一体化を促進した。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (57) (58) にマークしなさい。

- [01] アメリカのモースは、1844年に世界最初の電信線を架設した。
- [02] アメリカの発明家として知られているベルは、1876年に磁石式電話を発明した。
- [03] 1901年に無線電信による大西洋横断通信に成功したのは、イタリアのマルコーニである。
- [04] イギリスは、19世紀末に世界一周の海底ケーブル電信網を完成させた。

設問 5

産業革命の成功で圧倒的な工業力を達成したイギリスは、自由貿易政策を推進した。それに関連してイギリスで1830年代以降に生じた事象に関し正しい順序となっているものを選び、その番号を (59) (60) にマークしなさい。

- [01] 東インド会社の中国貿易独占権廃止－反穀物法同盟の結成－航海法廃止－穀物法廃止
- [02] 反穀物法同盟の結成－航海法廃止－穀物法廃止－東インド会社の中国貿易独占権廃止
- [03] 東インド会社の中国貿易独占権廃止－反穀物法同盟の結成－穀物法廃止－航海法廃止
- [04] 反穀物法同盟の結成－穀物法廃止－航海法廃止－東インド会社の中国貿易独占権廃止

設問 6

1870年代半ば以降におけるヨーロッパ列強による帝国主義は、力による世界の一体化という面があった。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (61) (62) にマークしなさい。

- [01] 石油と電力を動力源とする重化学工業を中心に第2次産業革命が起こり、企業の集中と独占が進んだ。
- [02] 1870年代以降の世界的な不況は、第一次世界大戦まで続いた。
- [03] 産業革命がいち早く始まったイギリスに対して、とくに後発のアメリカとドイツで、産業資本と銀行資本とが融合した金融資本の役割が高まった。
- [04] イギリスは、製品輸出から資本輸出へ比重を移し、「世界の銀行」と呼ばれるようになった。

設問 7

第二次世界大戦の終結後には、世界規模の貿易自由化を促進することを目的とする諸制度が設立された。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の (63) (64) にマークしなさい。

- [01] 関税の引き下げや輸入規制の撤廃を目的とするGATTが1947年に成立した。
- [02] ブレトン＝ウッズ国際経済体制はいきづまり、1973年に国際通貨体制は変動相場制へと移行した。
- [03] 1980年代後半には、チリでGATTの多角的貿易交渉が開始された。
- [04] 冷戦終結後にGATTを受け継いで成立したWTOは、貿易自由化のみならず、貿易紛争の調停も行っている。

設問 8

現代における世界の一体化は、1990年代以降における情報技術（IT）革命の急速な進行により推進されている面がある。それに関連して、以下の中から誤った記述を選び、その番号を解答用紙の

(65)	⋮	(66)
------	---	------

 にマークしなさい。

- [01] アメリカにおける、弾道計算などを目的とするコンピュータ（電子計算機）の開発は、第二次世界大戦中に始まった。
- [02] 1946年に開発されたコンピュータにはトランジスターが使われていた。
- [03] 今日、インターネットと呼ばれる通信網は、当初、軍事開発と関係があった。
- [04] 日本で民間事業として携帯電話サービスが開始されたのは、1980年代のことである。

問題Ⅳ

以下の問題文の空欄 (67) (68) から (81) (82) に入る最も適切な語句を語群の中から選び、その番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。また、下線部に関する設問 (ア) (83) (84), (ウ) (87) (88) および (エ) (89) (90) については最も適切な語句を語群の中から選び、(イ) (85) (86) と (オ) (91) (92) については最も適切な選択肢を選んで、それぞれの番号を解答用紙の所定の欄にマークしなさい。

現在のポーランドはヨーロッパ連合 (EU) の一員であるが、この国が今日の姿をとるまでの道のりは決して平坦なものではなかった。その過程を見てみよう。

ポーランド人を含む西スラヴ人は、ゲルマン人の移動後に東欧地域に西進してきたと考えられているが、^(ア)ポーランドの名のもととなったボラニエ族は10世紀頃建国し、ローマ＝カトリックを受け入れた。この王朝は14世紀前半には (67) (68) 大王のもとで繁栄したが、1386年に女王ヤドヴィガが隣国のリトアニア大公ヤゲウォと結婚してリトアニア＝ポーランド王国となった。このヤゲウォ朝は、脅威であったドイツ騎士団をも撃退して15世紀にもっとも栄えた。^(イ)16, 17世紀のポーランドではシュラフタと呼ばれる貴族による選挙王政が行われていたが、対外的には近隣諸国との争いを繰り返した。

18世紀、ポーランドは貴族の対立と列強の介入によって国力を減退させ、3度にわたってロシア・オーストリア・プロイセンに分割され、1795年に完全に消滅した。分割に抵抗して、国内では憲法制定などの近代化の試み、(69) (70) 率いる義勇軍の決起も見られたが、失敗に終わっている。ナポレオンが1807年に建てたワルシャワ大公国は祖国再興の期待を高めたが、1814年のウィーン会議によって成立したポーランド王国は事実上^(ウ)ロシア帝国の支配下に入った。こうした中で19世紀のポーランドでは独立を求める反乱が頻発した。ポーランド人の強い民族意識は文化・学術面にも見ることができる。たとえばポーランド人作曲家 (71) (72) は民族音楽を用いてマズルカやポロネーズを作曲し、キュリー夫人は自分の発見した元素のひとつをポロニウムと名付けている。

ポーランド国家の再建は、第一次世界大戦の参戦各国がポーランド人の軍事的協力を得ようと独立を支持した結果、1918年11月に実現した。しかしヴェルサイユ条約によって回復した国土は1772年の分割以前の状態には及ばず、特に海沿いの重要な都市 (73) (74) が国際連盟管理下の自由市となったことなどは国民には不満であったとされる。一方、現在のウクライナ西部にあたる地域では大戦中から紛争が起きていたが、ポーランドは1920年4月にこの地域に侵攻してポーランド＝ソヴィエト戦争を起こし、東方に領土を拡大した。この時にポーランド軍を率いたのが、1926年にクーデターで実権を掌握する (75) (76) である。1920年代にはハンガリーでも (77) (78) を摂政とする権威主義的な体制が成立した。

ポーランドは第二次世界大戦の始まりの舞台ともなった。^(エ)ナチス＝ドイツが1939年に独ソ不可侵条約を締結してポーランド侵攻を開始し、これを受けてイギリス・フランスがドイツに宣戦したのである。戦後のポーランドはソ連に東部を割譲する代償にドイツ領の一部を獲得し、戦前の国境線が約200km西に移動した。しかしドイツ連邦共和国 (西ドイツ) は長いこと新国境を認めず、この (79) (80) 線が認められたのは1970年の国交正常化条約によってであった。

社会主義国としてのポーランドは、ソ連型の人民民主主義に基づき土地改革と計画経済による工業化を進めたが、1956年6月にはポズナニで生活改善と民主化を要求する民衆の暴動が起り、軍や警察と衝突した。これに対して共産党は、失脚していた (81) (82) を第一書記として復権させることで国民の不满を抑えソ連の介入を防いだのだったが、この政権も一定の改革と自由化の後、1970年に崩壊した。

1980年にはワレサを指導者とする自主管理労組「連帯」が設立され、「連帯」は1989年の選挙で圧勝して戦後初の非共産党政権となった。^(オ)同年、他の東欧諸国でも共産党政権が崩壊し、1991年のワルシャワ条約機構の解消を経て、東欧

社会主義圏は消滅した。そしてその一員であったポーランドは、チェコ、スロヴァキア、ハンガリー、バルト三国などとともに2004年にEUへの参加を果たしたのである。

[設問]

(ア) 一方、東スラヴ人はこの頃ビザンツ帝国との結びつきを強めており、 川沿いの都市キエフを中心とする公国の君主ウラディミル1世は、10世紀に自らギリシア正教に改宗してこれを国教とした。

(イ) この時期のポーランドと近隣諸国について、正しい記述を下から選び、 に番号をマークしなさい。

[01] 16世紀末、ロシアではイヴァン4世が死去しミハイル＝ロマノフがロマノフ朝を開いたが、その後社会は混乱し、動乱時代と呼ばれた。

[02] ポーランド人の天文学者コペルニクスは1543年に『天球回転論』を著し地動説を唱えたが、カトリック教会によって異端とされ、公開処刑された。

[03] ポーランド国王ヤン3世は、1683年にウィーンを包囲したオスマン帝国軍を撃退するのに貢献した。

[04] この時期スウェーデンはバルト海に進出し、1648年のウェストファリア条約でケーニヒスベルクを得てバルト帝国と呼ばれた。

(ウ) ロシア帝国では19世紀から20世紀にかけて帝政批判の運動が拡大した。1905年には「血の日曜日事件」が起きたが、この時民衆のデモを率いた司祭は誰か。

(エ) この年イタリアは、かねてより保護国としていたバルカン半島のある国に対して軍事行動を起こし、同君連合とした。ある国とはどこか。

(オ) 1980年代から1990年代の東欧諸国とソ連・ロシアについて、正しい記述を下から選び、 に番号をマークしなさい。

[01] ソ連では1990年に直接選挙によってゴルバチョフが初代ソ連大統領に選出され、彼は共産党書記長を辞して就任した。

[02] 1991年12月にソ連は崩壊し、各構成共和国は独立国として「独立国家共同体 (CIS)」を創った。しかし旧ソ連の構成共和国のうちバルト三国とグルジア (ジョージア) は一度もこれに加わっていない。

[03] ソ連崩壊後、ロシア連邦では1993年に新憲法が成立したが、その制定過程でエリツィン大統領と議会の反対勢力とが対立し、エリツィン大統領は反対勢力の立てこもる最高会議ビルを戦車で砲撃させた。

[04] バルカン半島ではユーゴスラヴィア解体の過程で数々の民族紛争が生じたが、NATOは時にこれらの紛争に介入し、コソヴォ紛争時の1999年には国連の決議に従ってセルビアを空爆した。

[語群]

- | | | | |
|----------------|------------|-----------------|---------------|
| 01. アウシュヴィッツ | 02. アラリック | 03. アルザス・ロレーヌ | 04. アルバニア |
| 05. イェルマーク | 06. ヴォルガ | 07. エグバート | 08. オーデル＝ナイセ |
| 09. カジミェシュ | 10. カーゾン | 11. カーダール | 12. ガボン |
| 13. キュリロス | 14. ギリシア | 15. クヌート | 16. クラクフ |
| 17. クロアチア | 18. ケレンスキー | 19. コシューシコ | 20. ゴムウカ |
| 21. シコルスキ | 22. ショパン | 23. ステファン＝ドゥシャン | 24. ステンカ＝ラージン |
| 25. スメタナ | 26. ダンツィヒ | 27. チャイコフスキー | 28. ドヴォルザーク |
| 29. ドナウ | 30. ドニエストル | 31. ドニエプル | 32. ドン |
| 33. ナジ＝イムレ | 34. ハイドゥ | 35. バルトーク | 36. ピウスツキ |
| 37. ビエルト | 38. プガチョフ | 39. ブハーリン | 40. ブルガリア |
| 41. プレスト＝リトフスク | 42. プレハーノフ | 43. ベラ＝クン | 44. ホルティ |
| 45. ミツケヴィチ | 46. ムラヴィヨフ | 47. モルダウ | 48. ヤルゼルスキ |
| 49. ラインラント | 50. ラスプーチン | 51. リスト | 52. リューリク |
| 53. ルーマニア | 54. ルール | 55. ワルシャワ | |